

【334】

氏名	菊 地 泰 次 きく ち たい じ
学位の種類	農 学 博 士
学位記番号	論 農 博 第 186 号
学位授与の日付	昭 和 43 年 1 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	自計式農家経済簿の理論的研究 —記録計算準則と経営分析方法について—
論文調査委員	(主 査) 教 授 神 崎 博 愛 教 授 来 原 正 信 教 授 岸 根 卓 郎

論 文 内 容 の 要 旨

自計式農家経済簿は、複式簿記の原理にもとづきながら、わが国の農家経済事情に適合すべく考案された簿記様式であり、今日もなおわが国農家簿記の本流をなすものである。

本論文はこの自計式農家経済簿の仕組みを理論的に考究し、記録計算上もうけられたおもな準則と記録結果にもとづく経営分析の方法に関して検討を加えるとともに、実用的な見地から新しい提案を試みたものである。

第1部は、自計式農家経済簿のもつ特色と、それら特色から生じた記録計算上のおもな準則をとりあげて、理論的ならびに実用的見地からそれぞれの根拠と妥当性について検討している。とくに農家経済を所得経済面と消費経済面とに分離する場合の判別基準とその理論的根拠を明らかにし、農家財産の分類については、固定財と流動財、供用財と結果財の分類に関する基本的な理由と実用上の便法に関する妥当性を明らかにしている。また生産物たな卸し評価に関しては、農家経済簿において市価評価が原価評価に優先する根拠を指摘し、家計仕向物評価に関しては、庭先販売価格と庭先購入価格とがともに評価基準としてそれぞれ根拠をもつことを指摘しかつそれを論証した。なお増殖概念については、これを減価償却概念と対応するものとしてとらえ、ことにその評価法や固定供用財増価に関する解釈ならびに取扱い方法について検討をおこなっている。

第2部は、農家経済簿の中でとられる農業経営の認識方法ならびに計算方法について吟味し、さらにその計算結果のもつ意義や役割について考察している。すなわち、農家経済の中に占める農業経営の地位と役割を明らかにするとともに、農業経営を農家経済の中からひき出して独立の組織体としてあつかう場合の認識方法ならびに計算上の問題点を明らかにしている。ことに小農経済的経営における所得ならびに純収益の概念、負債利子と租税公課の取扱いに関して詳細に検討し、小作地をふくめた経営体の認識に関しても提案を試みている。なお、農業経営分析に際して有用なおもな成果指標をとりあげて、それらの意義、役割についても考察し、ことに農業専従者報酬なる概念を成果指標として導入し、その理由と計算手

続きを明らかにしている。

第3部は、農家経済簿にもとづく部門計算がどのような前提と手続きの下におこなわれるかを考察している。まず計算対象としての部門の認識方法を、生産対象の範囲、生産工程の範囲、計算の単位期間という三つの視点から検討している。つぎに部門資本の計測に関して理論的に考察しながら、自計式農家経済簿にもとづいて可能な実用的な計測方法を提示している。そして最後に、記録結果にもとづく年度計算としての部門収益計算に関し、その理論的根拠を明らかにするとともに、主要な成果指標に関する計算上、解釈上の問題点を理論的ならびに実用的見地から詳細に検討している。

論文審査の結果の要旨

自計式農家経済簿は、複式簿記の原理にたちながらも一般企業簿記とはかなり異なる帳簿組織をもち、記録計算の上でも独特な準則がもうけられている。しかし、それらの準則の中には明確な理論的根拠をもつものもあれば、実用上の理由からかなり便宜的にうけられたものもあり、それらを理論的に追究してそれぞれの根拠を明らかにすることは、きわめて重要な課題である。

本論文の第1部は、以上のような問題意識をもって自計式農家経済簿の特色をとらえ、その特色から生じた記録計算上の主要な準則の中で、その根拠の不明確な問題について理論的に追究し、それらに対して独自の見解を示したものである。ことに所得経済面と消費経済面の分離、農家財産の分類、生産物の評価、増殖の意義と計測に関して、理論的ならびに実用的見地から詳細な検討を加え、独創的な知見を示している。

また自計式農家経済簿は、農家経済全体のはあくを第一の任務とするために、記帳結果にもとづく農業経営計算や部門計算に関しては従来十分な研究がなされておらない。本論文の第2部、第3部はこれらの問題を追究し、経営体の認識、経営要素の計測、期間損益計算、成果指標の意義と役割などについて新たな見解を示している。ことに農業経営や生産部門を農家経済の部分としてとらえる場合と、農家経済からひき出して独立の組織体としてとらえる場合との認識上ならびに計測上の相違点を明らかにしたこと、部門資本の計測に関して理論的根拠にもとづいた実用的な方法を提示したことなどは、貴重な業績として注目される。

以上のように本論文には農家経済簿に関する多くの新知見がみられ、それらは農家簿記ならびに農業経営の理論的研究に貢献するのみならず、その実用面にも寄与するところが多大である。

よって本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。